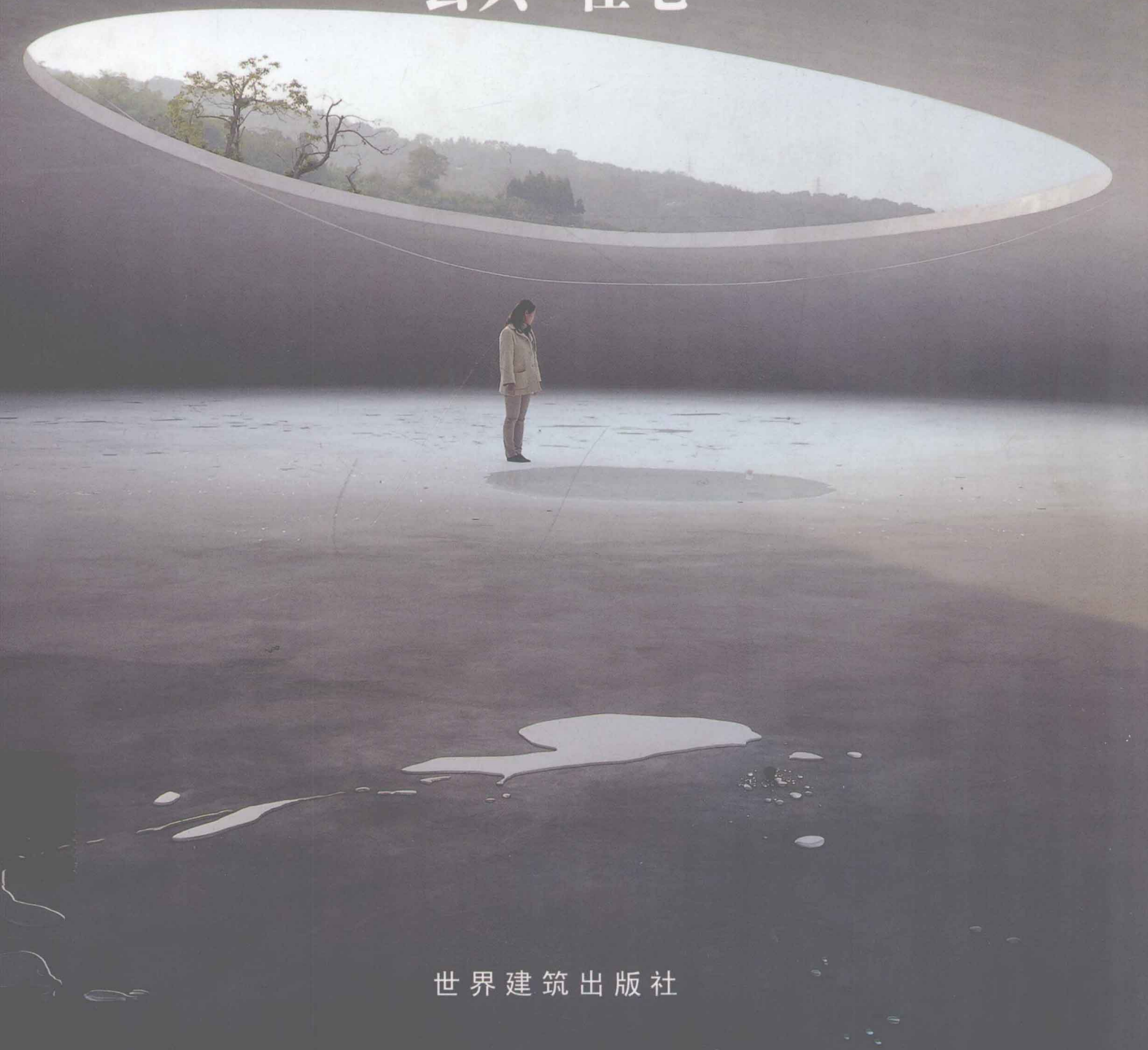
新建築

III

公共·住宅



世界建筑出版社

目　録
CONTENTS

スリランカの住宅 002
安藤忠雄建築研究所

豊洲キュービックガーデン 017
清水建設＋梅垣春記

豊洲フロント 025
三菱地所設計

上本町YUFURA 031
日本設計

出雲市庁舎 039
川島克也＋田中公康／日建設計・みずほ設計出雲市新庁舎設計共同体

熊本駅東口駅前広場 暫定形 048
西沢立衛建築設計事務所

熊本駅西口駅前広場 056
佐藤光彦建築設計事務所

熊本南警察署熊本駅交番 062
クライン ダイサム アーキテクツ

白川橋左岸緑地トイレ 067
デザインヌーブ

熊本駅周辺地域都市空間デザイン 073
田中智之＋星野裕司＋原田和典／熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議

K 074
中原祐二建築設計事務所

日月潭風景管理処 082
團紀彦建築設計事務所

台中メトロポリタン・オペラハウス 097
伊東豊雄建築設計事務所

三里屯SOHO 102
隈研吾建築都市設計事務所

島キッチン 111
安部良／ARCHITECTS ATELIER RYO ABE

録museum 119
中村拓志／NAP建築設計事務所

三輪窯Ⅱ（不走庵） 129
設計　三分一博志建築設計事務所

阿佐谷南の集合住宅 HUTCH 138
谷内田章夫／ワークショップ

桜並木の集合住宅 150
若松均建築設計事務所

用賀十字路の集合住宅 160
若松均建築設計事務所

たまむすびテラス 166
リビタ（りえんと多摩平）
ブルースタジオ（りえんと多摩平＋AURA243多摩平の森）
瀬戸健似＋近藤創順／プラスニューオフィス（ゆいま～る多摩平の森）

YS BLD. 174
青木茂建築工房

世田谷フラット 183
苅部寛子建築設計事務所＋成瀬・猪熊建築設計事務所

Casa Dourada 190
宮部浩幸／SPEAC

駒沢公園の家 197
今村水紀＋篠原勲／miCo.

LUZ白金 205
川辺直哉建築設計事務所

kap 213
駒田剛司＋駒田由香／駒田建築設計事務所

萩塚の長屋 221
藤野高志／生物建築舎

HOUSING S 229
藤村龍至建築設計事務所

ISANA 237
ニコ設計室

白蓮居 245
浅利幸男／ラブアーキテクチャー

スリランカの住宅

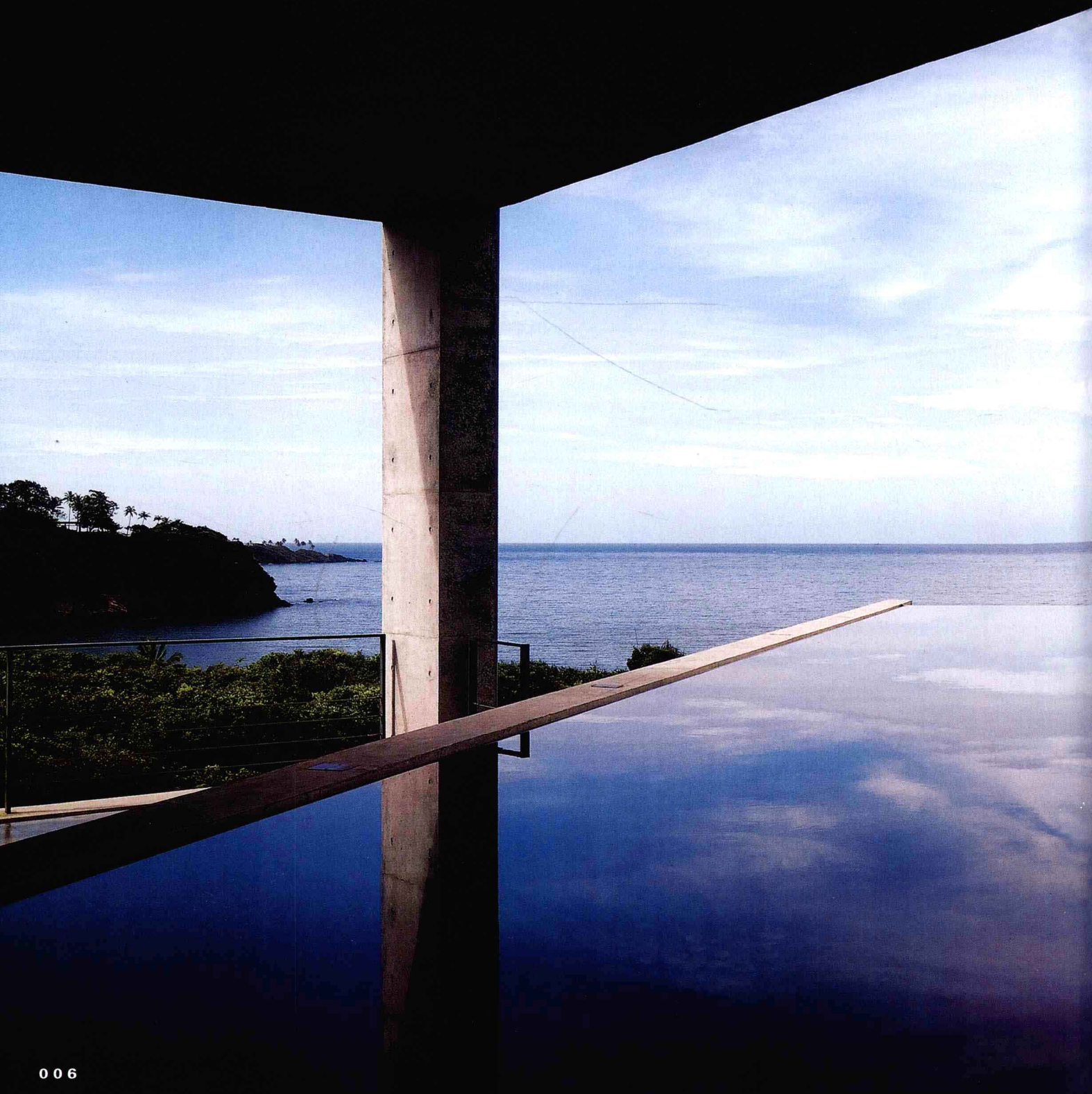
設計　安藤忠雄建築研究所
施工　Sanken Lanka
所在地　スリランカ，ミリッサ
HOUSE IN SRI LANKA
architects:TADAO ANDO ARCHITECT & ASSOCIATES

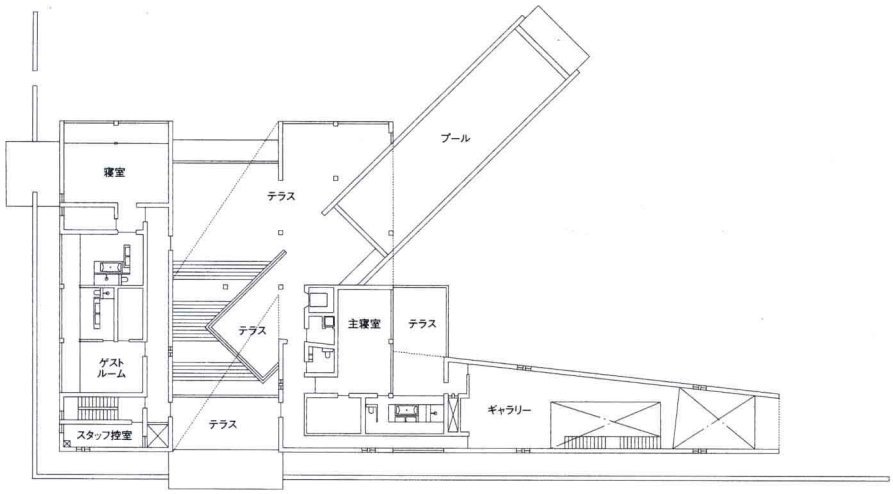
対岸の岬から望んだ南側外観．敷地はインド洋に浮かぶ島国スリランカの南端，北緯約6度の，湾に面した海岸沿いに位置する．高温多湿の熱帯気候に属し，雨季と乾季で降水量こそ大きく変わるものの，海沿いの平地は一年を通じ気温28度前後の常夏の環境である．住宅は通称「レッド・クリフ」と呼ばれる切り立った崖の上の高台に位置し，周囲は自生したブッシュで覆われている．

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

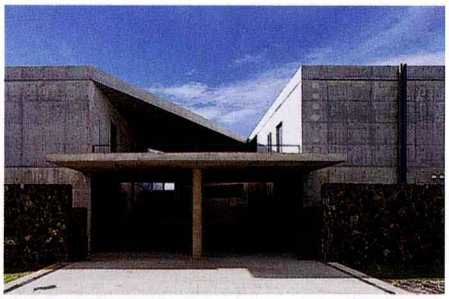
西側外観．建物は，クライアント夫妻の住まいとゲストハウスを兼ねた住宅部分と，アーティストである夫人のアトリエからなる．アトリエ棟（左）とダイニング棟（右）にはさまれた空間は，地階のリビングや読書室に光や風を誘い込む緑の丘になっている．ダイニング棟上部は，スイミングプールになっている．

2階テラスからプール越しに南西の海を望む．インド洋にそのまま注ぎ込むようなinfinite poolはクライアントからの要望を反映したもの．プールの側面と底面には，現地産の黒褐色の石材が敷き詰められている．左側の岬にはGeoffrey BawaによるParadeep Jayewardene house が見える．

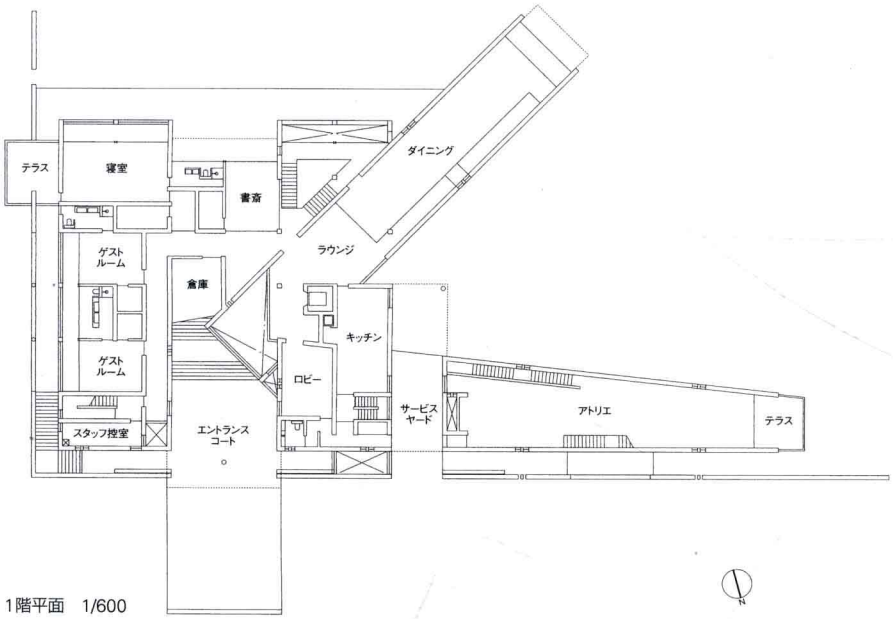




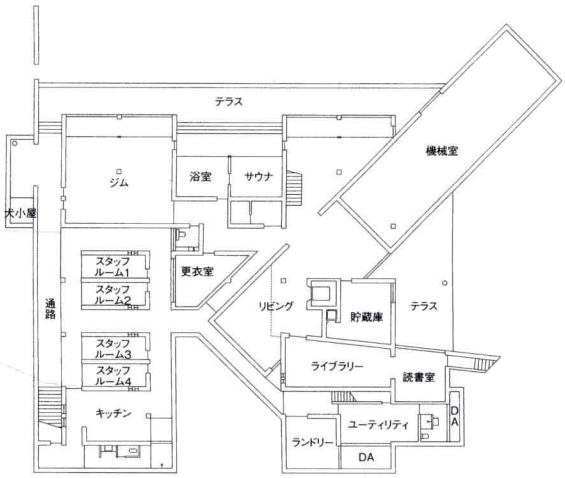
2階平面



上：北側主玄関．St-FBの縦格子の門扉が左右に見える．
下：東側外観．外周部は現地風の石積み壁で包まれている．
その壁の向こうに見えるのはゲストルームのバルコニー．

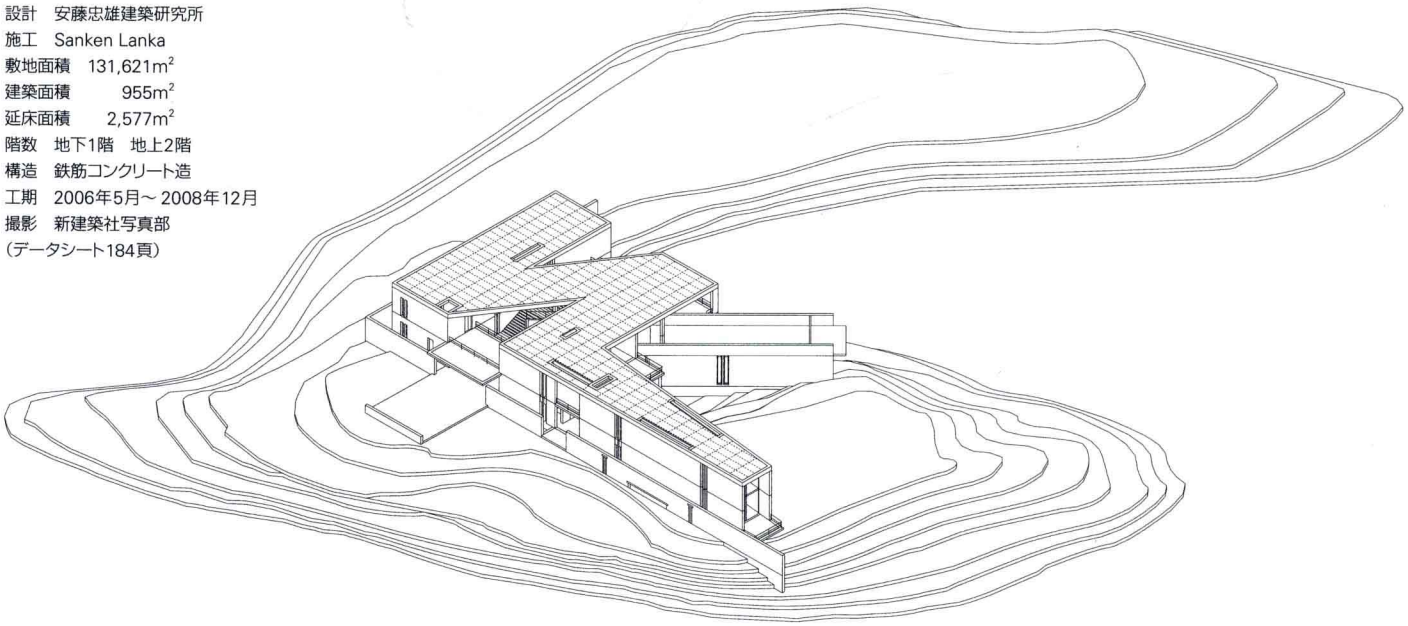


1階平面　1/600



地階平面

設計　安藤忠雄建築研究所
施工　Sanken Lanka
敷地面積　131,621m²
建築面積　955m²
延床面積　2,577m²
階数　地下1階　地上2階
構造　鉄筋コンクリート造
工期　2006年5月～2008年12月
撮影　新建築社写真部
（データシート184頁）



2階プール越しにアトリエ棟，その向こうの遠浅の海岸線を見る．型枠用コンクリートパネルボードは日本の規格品と同じ900mm×1,800mmに中国の工場で製作・輸入された塗装合板を用い，原則として壁・天井ともすべてこのサイズを基準にして割り付けられている．

エントランスコートに続く大階段を上りきった先にある，2階テラス．熱帯気候に快適な生活をもたらす，風通しのよい半屋外空間．床仕上げは手前がテンプルストーン，奥がカットコンクリート，プール手前はウッドデッキとなっている．

大階段を上った先にはインド洋が広がる．ジグザグに配された屋根の切れ間からは空がのぞく．階段脇の横長窓は，ダイニングルームに通風を確保し，地階リビングに自然光を導くための開閉式ハイサイドライト．

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

1階ダイニング．突き当たりにはインド洋に沈む夕日を望むことができる開口部がある．ここには床下に格納される上下式の電動窓が設置されており，開け放つと自然がそのまま入り込んでくる．

1階と地階を結ぶ2層吹抜けの三角形の階段室（左）とダイニング（右）．静的なダイニングとは対照的に階段室は周囲の自然を180度見渡すことのできる動的で開放的な遷移空間となっている．

1階アトリエは，アーティストである夫人が静かに創作活動に没頭できるように，一続きの建物の中にあって，もっとも独立性の高い位置にある．
外部周りの開口部にはベルギー製の規格品の鋼製建具が用いられているが，ここでは規格品に化粧材を付加している（64頁参照）．

1階アトリエ．棚には夫人の仕事道具が並び，描きかけの作品が立てかけられている．自然光のもとで作品制作が行えるように，アトリエの中ほどの両壁面沿いにトップライトが設けられている．2階にはアトリエを立体的に活用するためのデッキが設けられ，ギャラリーとしても使われている．

スリランカの新しい建築

安藤忠雄

2階南側の寝室.

2階主寝室.

遠い島からの突然の依頼

インド洋に浮かぶ島国，スリランカの南端の，海に面した切り立った崖の上に建つ住宅である．人口約2千万人で国民の7割が仏教徒であるスリランカは，隣国インドとは国民性や文化の上で大きく異なっており，むしろ情緒の上では日本と似通っている点も見られる．かつてイギリスの植民地であったスリランカは，近代化という点からは進んでいるとは言いがたいが，土着的なものと西洋的なものが融合された独自の文化を形成しており，建築文化も興味深い．本プロジェクト遂行中も含めた数年間，少数民族過激派によるテロが頻発し，一部で内戦の様相を呈していたが，建物竣工後に完全に制圧され，現在は平和が取り戻されている．

クライアントは，スリランカで製造業の会社を興し，グローバルな企業へと発展させた実業家である夫と，スリランカの風土にインスパイアされた作品をつくり続けている画家である妻の，ベルギー人夫妻である．ヨーロッパとスリランカを行き来しながら暮らしているが，一年の多くをスリランカで過ごし，その風土と文化，人びとをこよなく愛している．ここに，苦労を共にした妻へのプレゼントとして，終の棲家としての住宅と，妻のアトリエをつくりたいという夫からの依頼が，2004年初旬，突然事務所に舞い込んだ．

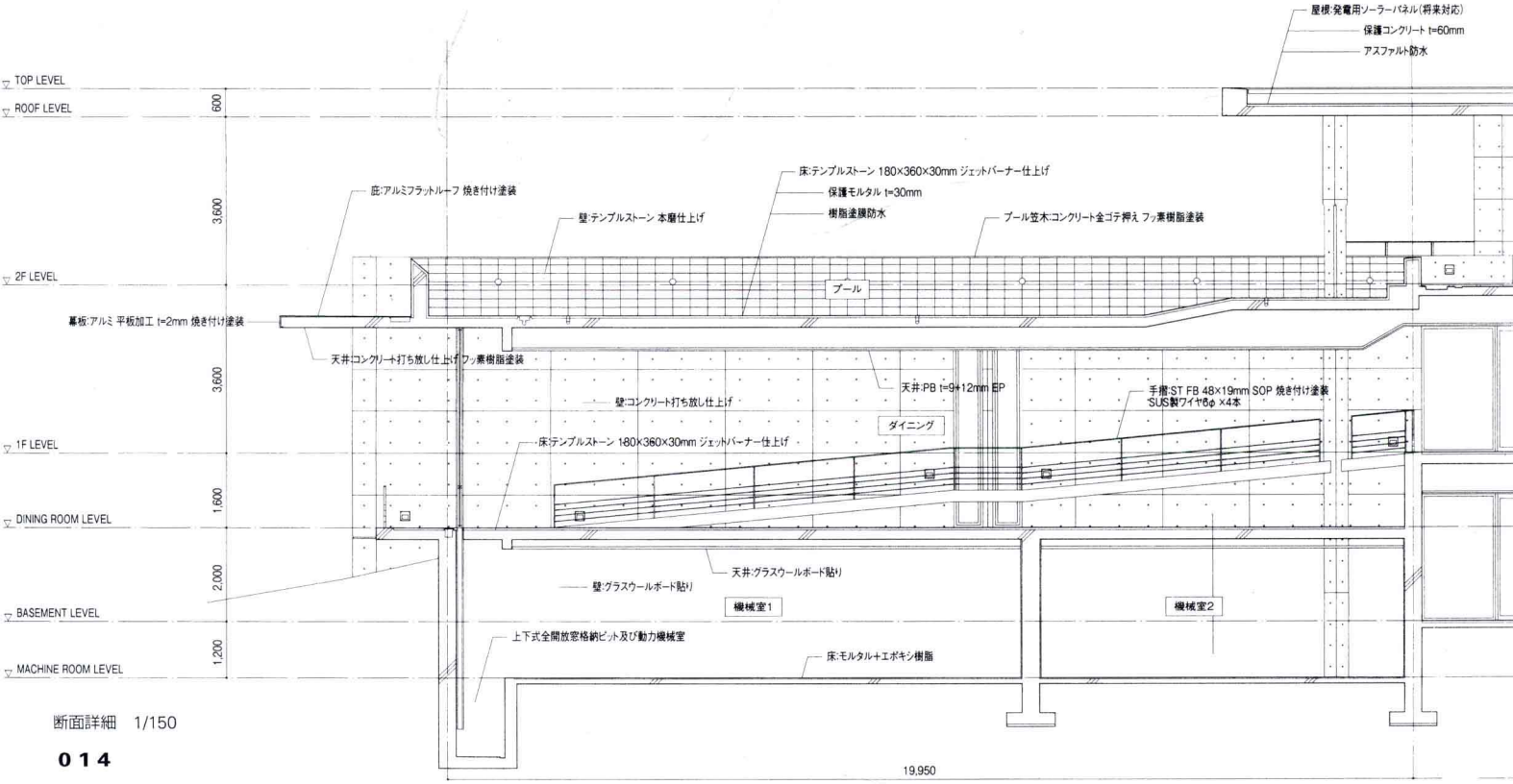
多くの困難を乗り越えて

その後，初対面のクライアントが来日して正式依頼を受け，現地インタビューのうえ選定したローカル・アーキテクトを交え，設計の打ち合わせを進めていたが，その暮れにスマトラ沖の大地震が起こり，この敷地の周辺を含めた広い範囲を津波による災害が襲った．そのような情勢の中で，いったんはプロジェクトの続行が不可能かと思われたが，自ら組織を立ち上げて復興支援事業を行っていたクライアントから，津波発生から数カ月のちに，住宅の設計を再開してほしいとの連絡があった．

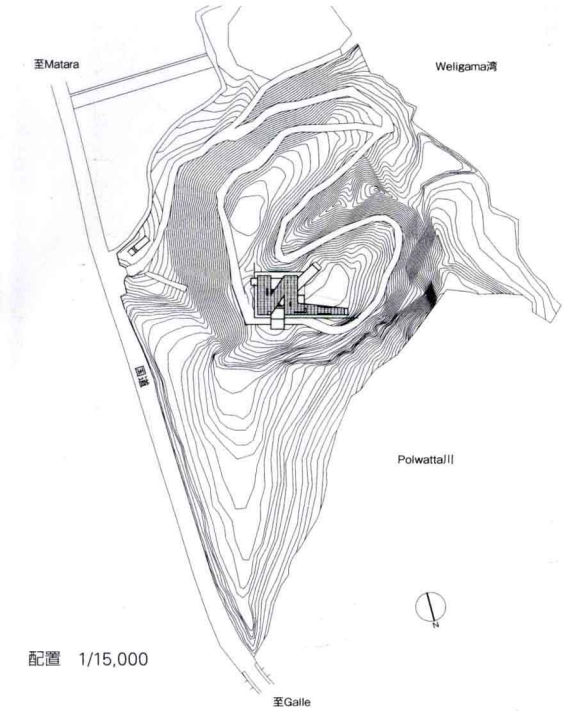
設計は再開され，現地建築家の協力の下で実施設計は完了したが，次の問題は，決して高いとは言えない現地の施工水準をもって，精度の高い打ち放しコンクリートの建物を，いかにして実現するのかということであった．日本のゼネコンの子会社から発展し現在は完全に現地法人となっている建設会社が施工を担当することに決まったが，彼らにも打ち放しコンクリートの実績はなかった．担当する現地技術者たち数人を日本に呼んで，現場見学会を行ったりもしたが，確信がもてなかった．そこで，クライアントの希望もあって，ふたりの日本人技術者が送り込まれることになった．ふたりとも，日本でわれわれの建物の施工に携わった経験を持ち，定年前後の年齢であったが，まだまだ元気で自分の培った力を社会に生かしたいという方たちだった．このふたりが初めての海外経験で，異なる文化・慣習に悪戦苦闘しながら，当時は道中の危険もあった現地に交代で指導に行き，スリランカ人の施工者たちと打ち解けつつも，時に激しくやりあってくれたおかげで，打ち放しの品質だけでなく全体の施工精度を高めることができたと思っている．

ここにしかない建築を求めて

建物は，クライアントの住宅，ゲストルーム，夫人のアトリエからなる．それらの機能をジグザクに蛇行するボリュームの中に配し，その間にできたすき間を，スリランカの自然との対話の場としての中間領域となるように計画した．常夏のスリランカの気候に合うように，半屋外の空間を多く設け，現地の住宅の多くがそうであるように風通しのよい建築になるように心掛けた．クライアントの希望によって，2階のテラスには，インド洋と視覚的に繋がったプールが設けられている．床仕上げには，テンプルストーン，カットコンクリート，ティンバー（木材）など，現地に産する素材を多く用いるようにし，建物の外周



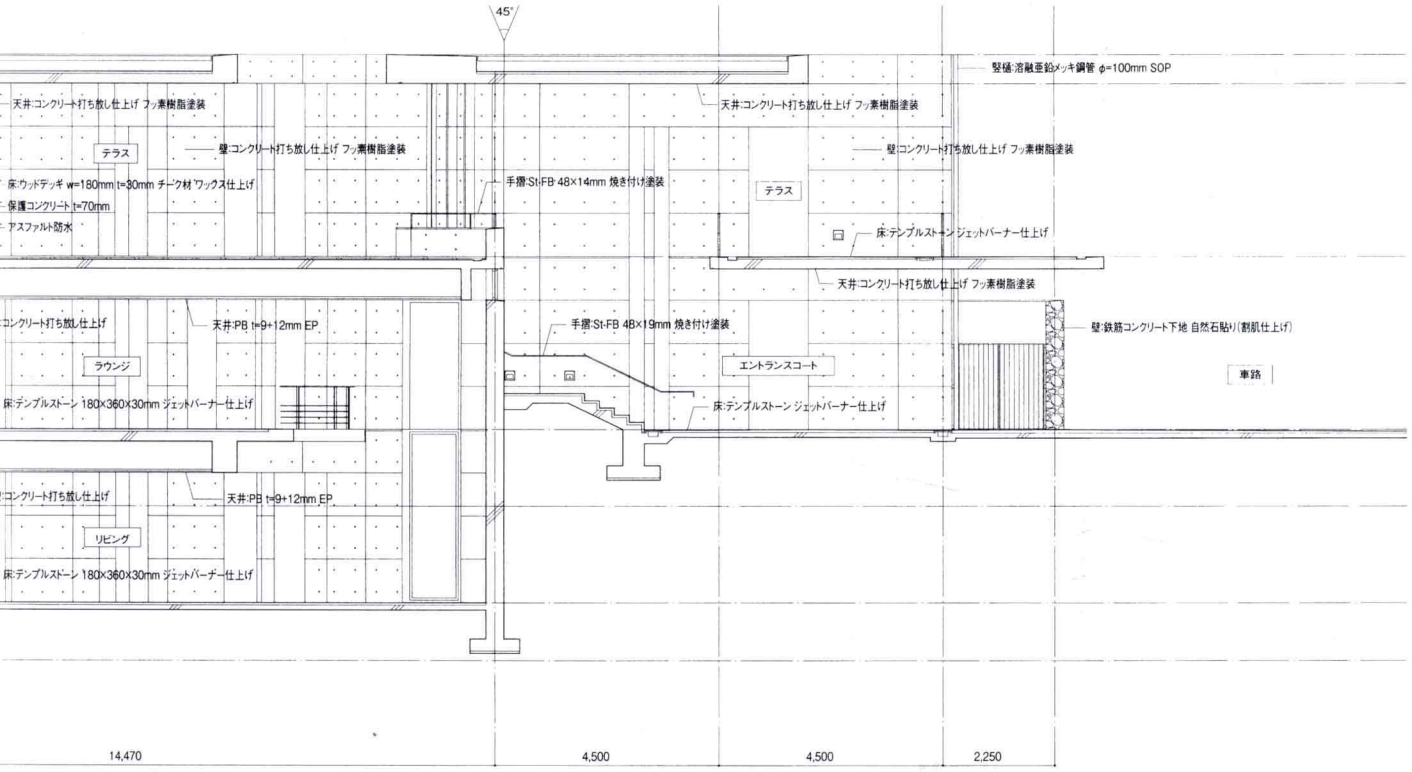
断面詳細　1/150

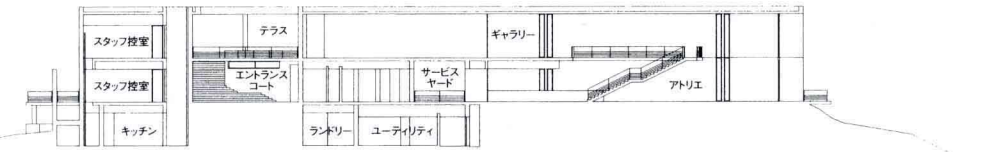


配置　1/15,000

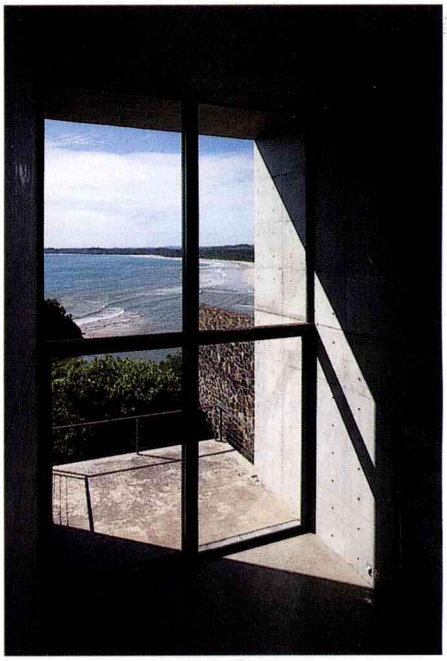
を，現地風の石積み壁で包むようにした．金属製建具はクライアントの祖国ベルギー製である．
さまざまな困難を乗り越えて，現地チームと日本人チーム，そしてその他の多くの国々の人びとが力を合わせることで，インド洋に浮かぶ楽園に，この国の建築のひとつの規範となり得るような，良質な近代建築が実現できたのではないかと思う．
夫妻は竣工後，生活の中心をこの住宅に移し，時折訪れる家族や友人たちと共に，スリランカの自然との対話を楽しみながら，多くの時間をここで過ごしている．アトリエからは，この場所でしかつくれない作品が，今日もまた生まれているだろう．

地階リビングと1階ラウンジを繋ぐ吹き抜け．2階の屋根スラブを支えているコンクリート打ち放しの柱が階下まかれている．この建物の柱は4,500mmのグリッドに載る位置に整然と配置され，断面寸法は一律360mm角．

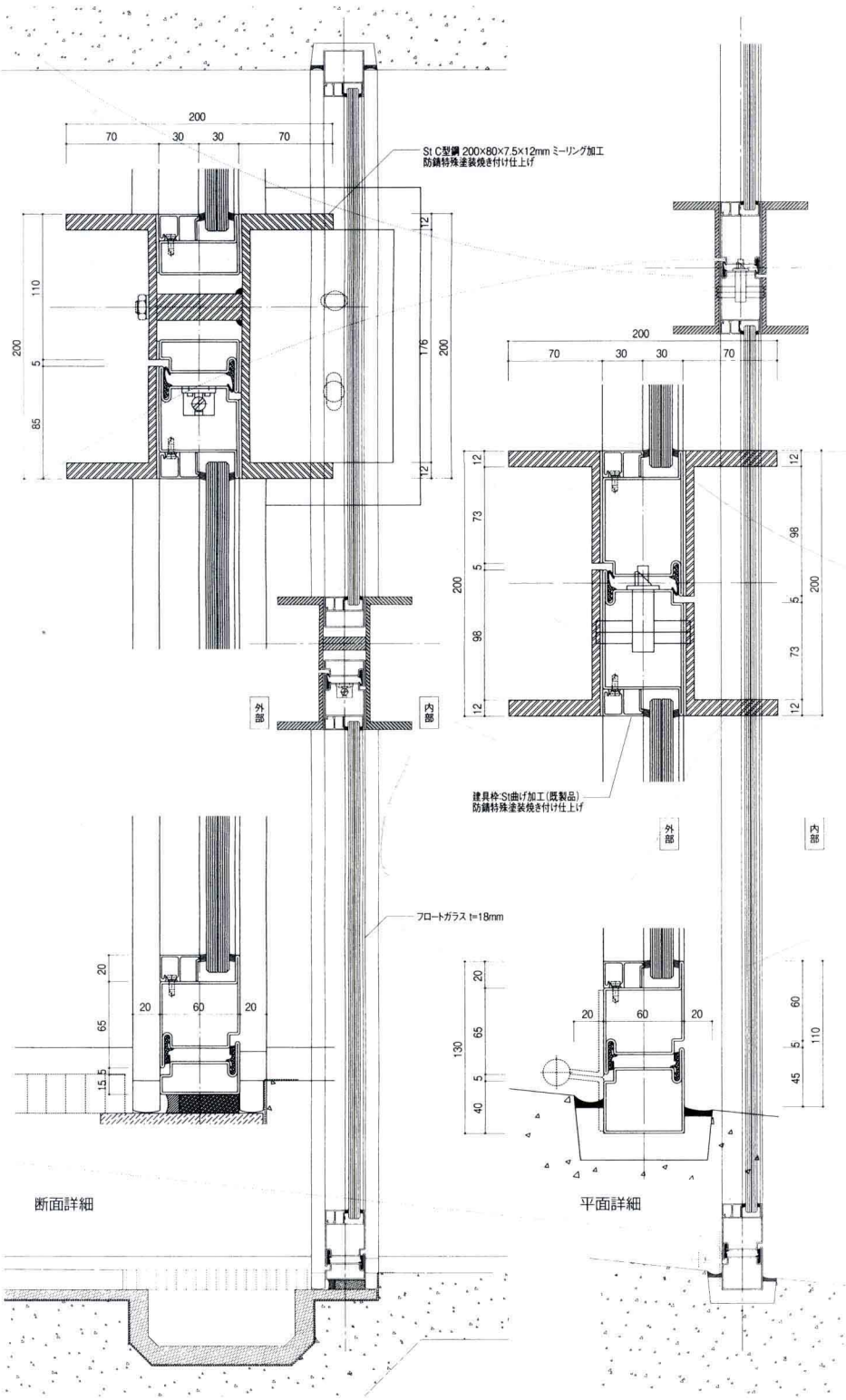




断面　1/600



アトリエの開口部は開閉可能．開け放つと，Polwatta川の河口と海岸線を見渡すテラスと繋がる．



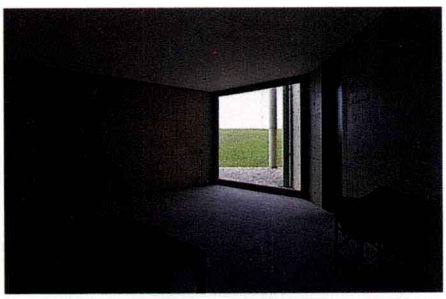
アトリエ開口部鋼製建具詳細　縮尺1/10（拡大図は縮尺1/5）

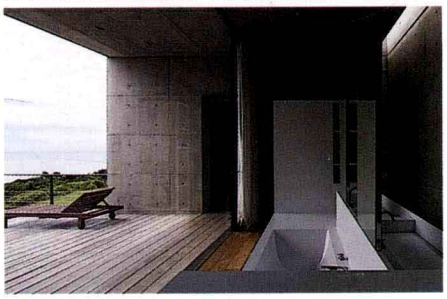
開口部のディテール

開口部の建具については，耐食性と意匠の見地から，日本やシンガポールから特殊型材によるアルミ製建具を輸入することも検討されたが，手続きやコストの問題から断念し，クライアントの祖国であるベルギーのAelbrechit-Maes社の防錆特殊焼き付け塗装を施した鋼製建具を採用することとした．基本的には自社規格品を用いながら，一部型鋼を加工した部材を意匠上の意図を満たすように付加する方針で，同社の技術者と打ち合わせを重ねたが，結果的により端正なデザインを実現することができた．

この窓はH型鋼の十字のフレームを中央にすえたFIX窓のように見せたかった．しかし，アトリエの居住環境の快適性を考慮し，開放できるよう検討を進めた．規格品と幅200mmのC型鋼を組み合わせることで，H型鋼の十字に見えるアクセントをつけるようにした．可動部の重量の問題と安全性への配慮から，下半分のみが開くようになっている．両側を開放したとき，中央のH型鋼の存在は消えるようなディテールとしている．

規格品の部分と化粧材は共にベルギーの工場で製作された後，別梱包で輸入され，この建物の鋼製建具の取り付けのためだけに特別にスリランカまで派遣されたベルギーの職人たちの手によって，現地で組み立てられ，ひとつの窓として完成した．　（安藤忠雄建築研究所）





上：地階リビング．緑の丘で乱反射した拡散光が入り込む．
下：主寝室に付属した浴室．前面に空中に張り出したテラス．

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com